

平成 27 年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

「大塚だからできる！大塚は夢をかなえる！大塚からはばたけ！」～社会的自立、社会貢献のできる生徒を育てます～

生徒の第一希望をかなえる進学にも就職にも強い学校をめざします。

- ・普通科…多様な生徒の幅広い教育ニーズに応え、地域に根ざした学校
- ・体育科…競技力の向上と府民のスポーツの振興、発展の拠点校としての学校

2 中期的目標

1 確かな学力の向上

(1) 生徒のニーズに応えた学習指導の充実を図る。

- ア TT、少人数展開、習熟度別、ICT活用などによる生徒が満足できる授業を展開する。
- イ 始業前学習や短期集中講座の実施により、基礎学力の定着をめざした学習を継続的にサポートする。

(2) 授業改善に積極的に取り組み、教員の授業力向上を図る。

- ア 校内研究授業週間をベースに、教員相互の自主的な授業観察、授業評価を行う。
- イ 生徒対象の授業評価、保護者の授業参観時の評価を授業力向上に繋げる。

※ 卒業アンケートで「3年間勉学に一生懸命取り組めた。」と答える生徒 (H26: 60.1%)、「大塚で3年間学んで学力面で伸びた。」と答える生徒 (H26: 58.8%)をそれぞれ70%とする。

2 志や夢のはぐくみ

(1) 生徒が自分の意志と責任で進路を選択できるようにガイダンス機能(的確な情報提供・進路HR・進路相談)の充実を図る。

※ 進路面で「第1希望をかなえることができた(ある程度できた)。」と答える生徒 (H26: 81.6%)が90%以上となるよう進路指導の充実を図る。

(2) 大学等の進学情報を収集・提供するとともに、大学見学会やオープンキャンパス等に生徒・保護者が積極的に参加できる機会を設ける。

(3) 3年間見通した継続的、系統的な進路講習を整備し全校的に計画的に実施する。

※ 大学進学率 (H26: 58.1%)を60%、センター試験受験者 (H26: 45名)50名以上をめざす。

(4) 就職内定率100% (H26: 35名)を維持する。

3 豊かな心と社会性の育成

(1) 「あたりまえのこと(挨拶・時間厳守・ルールやマナーの遵守)をあたりまえに！」を合言葉に規律規範の確立に努める。

ア 生徒全員が明るく大きな声であいさつのできる学校を維持・発展させる。

※ 遅刻総数(教務遅刻) (H26: 1,138件)1,000件以内とする。

イ 教育相談体制を整備・充実し、生徒たちの心のケアに努め、安心安全な学校づくりを推進する。

ウ 生徒状況の把握と保護者との緊密な連携を図るため、保護者との三者面談100%実施をめざす。

エ 保健部、人権委員会、学年が連携したケース会議を効果的に運用する。

オ 学校行事(大塚祭)の充実及び部活動の充実を図る。

※ 普通科生徒の部活動への参加を積極的に推進し、部活動加入率を70%以上とする。

4 体育・スポーツの拠点校としての発展と地域交流の促進(開かれた学校づくり)

(1) 活発な部活動と体育科の専門性を活かし、広く府民の体育・スポーツの振興発展を目標に、地元小学校や中学校を中心としたスポーツ交流やボランティア活動を推進する。また、2020年東京オリンピック出場をめざし、府民に夢と感動を与えられるようなトップアスリートを育成する。

ア 松原市の地元小学校と連携した「ふれあい大塚スポーツ教室」を継続実施する。

イ 地元中学校の運動部との連携と交流を促進する。

(2) 松原市におけるスポーツ関連事業等に積極的に参加し、地域交流・地域貢献を推進する。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [平成 27 年 12 月実施分]	学校協議会からの意見
<p>【生徒】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「大塚を選んで良かったと思う。」に対する肯定値が、普通科 61.6% (3年: 73.9、2年: 52.6、1年: 58.3) 体育科 84.2% (3年: 91.9、2年: 79.5、1年: 81.3) ・「学校に行くのが楽しい。」に対する肯定値が、普通科 63.2% (3年: 66.4、2年: 60.4、1年: 62.9)、体育科 81.6% (3年: 82.9、2年: 75.6、1年: 86.3) ・「学校生活についての先生の指導に納得できる。」に対する肯定値が、普通科 55.3% (3年: 57.5、2年: 46.2、1年: 62.2)、体育科 77.3% (3年: 77.5、2年: 73.1、1年: 81.3) <p>⇒普通科生徒の「学校に行くのが楽しい」、「大塚を選んで良かった」、「先生の指導に納得できる」という設問への肯定率が、体育科生徒と比べるとかなり低く、部活動等へのしっかりとした目的意識や目標を持ちながら学校に通うことの大切さが視える。</p> <p>【保護者】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「子どもが大塚を選んで良かったと思っている。」に対する肯定値が 84.9% (3年: 89.8、2年: 82.5、1年: 82.5) <p>⇒生徒の数値と比較すると保護者の数値が高いことから、学校に期待するものが、本質的に違いがあることが視える。</p>	<p>【第1回(平成 27 年 6 月 23 日実施)】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○学校経営計画案について <ul style="list-style-type: none"> ・自習スペースの確保…今後の生徒数減少に伴う空き教室の有効活用の一環として考えていくべき。 ・体育科の名称変更…地元住民としては、「大塚の体育科」というイメージが根強い。 ・同窓会組織の活性化…運動部 OB・OG 会組織の有効活用が現実的な方法であろう。 ○進路指導部からの報告について <ul style="list-style-type: none"> ・進学者数、主な指定校、進学先等を地元中学校にもっと広報すべきではないか。 <p>【第2回(平成 27 年 11 月 17 日実施)】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○授業見学について <ul style="list-style-type: none"> ・落ち着いた雰囲気であり、寝る生徒が皆無であった。 ○学校教育自己診断について <ul style="list-style-type: none"> ・保護者の意見の中に PTA 活動に関するものが散見されるが、小中学校とは環境が異なるので同一レベルでは考えにくい。 ○授業アンケートについて <ul style="list-style-type: none"> ・アンケートの結果が教員の評価に繋がることも生徒は知っているものが多い。 <p>【第3回(平成 28 年 2 月 9 日実施)】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○平成 27 年度学校評価及び平成 28 年度経営計画案について <ul style="list-style-type: none"> ・学力中位層への働きかけを検討してはどうか。 ・小中学校との交流機会を増やせば、一層公立高校への関心が高まると思う。 ・中学生が興味を持つであろうダンス部の交流などは学校の広報にも効果が期待できるのではないか。 ・文化部の活動実績で高校を選ぶ傾向は少ない。 ○生徒による授業アンケート(第2回目)結果について <ul style="list-style-type: none"> ・体育実技の評価が高い。 ・各教員の授業に対する生徒の意見は概ね実態が反映されていると考えられる。 ○学校教育自己診断結果について <ul style="list-style-type: none"> ・学年進行に伴い肯定値が上がるのが通常ではあるが、2 学年での肯定値が低く、特にホームルーム活動についての肯定値の低さが気がかりである。

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1 確かな学力の向上	授業力向上の取組みと生徒の学習意欲を高める取組みの充実 ア ICT を活用した授業の推進 イ 授業研究の推進 ウ 学習意欲の向上 エ 体育科教育の充実・発展	ア・ICT を活用した研究授業を実施し、さらに魅力ある授業への取組を推進する。 イ・学習指導部の取組みとして、研究授業週間を1・2学期に設定し、全教科で研究授業を実施する。 ・授業アンケートの結果を授業力向上委員会において分析することにより各教員の授業改善を進める。 ・初任1・2年目の教員を対象とした校内研修を充実させる。 ・「体育科教員指導支援事業（H25～26）」の実施により高まった「教科体育」のさらなる指導力向上を図る。 ウ・始業前学習の充実を図る。 ・成績不振者を対象にした短期集中講座を実施する。 ・校内における自学自習習慣を確立させる。 エ・「体育科」の名称変更を契機とする体育科教育の一層の充実・発展を促進する。	ア・授業に ICT を活用する教員の率を50%以上に高める。(H26：48%) イ・授業相互見学を年間2回実施し、実施率を70%以上に高める。(H26：58%) ・学校教育自己診断において、「授業は工夫されていてわかりやすい。」という生徒の回答率を60%以上とする。(H26：普通科48.9%、体育科60.3%) ・初任者等を対象とした校内研修を3回実施する。(H26：2回) ・授業アンケートにおいて、体育授業における「生徒意識」の項目での肯定的回答率を80%以上とする。(H26：78%) ウ・始業前学習の実施回数を1割増とする。(H26：週2回) ・定期考査前講習（H26：年間5回）、長期休暇中の補習（H26：年2回）を継続実施する。 ・学校教育自己診断において「意欲的に取り組んでいる。」という生徒の回答を75%以上とする。(H26：普通科61.4%、体育科76.7%) ・校内に自習スペースを確保する。 エ・校内での検討組織の立ち上げを行う。	ア・延べ24名の教員がICTを活用した授業を行っている。(H27：38.8% (△)) イ・「授業は工夫されていてわかりやすい」という肯定回答率が普通科44.7%、体育科60.9%であり、一層授業改善に向けた取組みが必要である。(△) ・校長による初任者校内研修を3回実施した。首席による校内研修を年間28回実施した。(◎) ・授業アンケートにおける「体育の授業内容に興味関心を持つことができた(生徒意識)」について、(3.6/4=90.0%)であった。(◎) ウ・始業前学習、短期集中講座は計画通り実施できた。(○) ・学校教育自己診断における「意欲的に取り組んでいる」の肯定率が普通科59.1%、体育科80.5%であった。(○) ・普通教室に長期休業中自習スペースを確保した。(○) エ・体育科教員が中心となって魅力ある体育科の発展に向けた取組みについて検討会を行った。(○)
2 志や夢のはぐくみ	将来の夢の実現に向けた取組みの充実 ア 進学講習の推進 イ 進学支援の充実 ウ キャリア教育の推進	ア・より充実した進路を獲得するための発展講習を実施する。 イ・進路別授業・演習を2年次より実施する。 ・大学見学会を1、2年生対象に実施する。 ウ・3年間実施した「実践的キャリア教育・職業教育支援事業」によって構築された校内支援体制の維持・継続を推進し、就職内定率の安定化を図る。	ア・早朝、放課後講習や夏・冬休み集中講習、センター試験前の直前講習を実施する。 イ・進路分野別説明会を1、2年次において、大学見学会を1年次において実施する。(H26：各1回) ・センター入試受験者50名以上、国公立大学合格者10名以上、難関私立大学合格者10%アップをめざす。(H26：センター45名、国公立4名、私大9名) ・卒業生アンケートの「第1希望をかなえることができた(ある程度できた)」と回答した率を90%以上とする。(H26：81.6%) ウ・就職内定率100%を維持する。 ・警察、消防、自衛隊等の公務員試験合格者数10名以上を維持する。(H26：警察5、消防1、自衛官10、行政1)	ア・テスト前講習や長期休業中、センター試験前講習を年間を通じて実施した。(◎) イ・1年生全員を対象に大学見学会を実施した。(○) ・センター試験受験者は42名であり、国公立大学合格者1名、難関私立大学合格者4名であった。(△) ・大学進学率が59.6%であり、より早い時期からの動機づけが必要である。(○) ・「第1希望を叶えることができた」と回答する卒業生が82.6%であり、自己実現に向けた早期からの目標設定と取組が必要である。(○) ウ・就職希望者(24名)の内定率が100%であり、公務員は消防が6名であった。(△)

府立大塚高等学校

<p>3 豊かな心と社会性の育成</p>	<p>規律・規範意識の確立と部活動の活性化 ア 基本的な生活習慣の徹底 イ 部活動の推進 ウ 教育相談体制の充実 エ 体罰根絶に向けた取組の充実</p>	<p>ア・早朝立ち番指導（挨拶と自転車指導、遅刻指導）を継続徹底する。</p> <p>イ・普通科生徒の部活動入部を促進する。</p> <p>ウ・教育相談室の有効活用を促進する。 ・人権学習の内容充実を図り、生徒・教職員の人権意識の高揚を図る。</p> <p>エ・教職員に対する体罰根絶に向けた校内研修を充実させ、正しい部活動指導の在り方について意識高揚を図る。</p>	<p>ア・遅刻者数 1,000 件以下を維持する。(H26: 1,138 件) ・学校教育自己診断において、「日常のあいさつをきちんとできている。」という回答率を 95%以上とする。(H26: 普通科 88%、体育科 97%)</p> <p>イ・普通科の部活動入部率を 60%以上とする。(H26: 男子 60%、女子 56.4%)</p> <p>ウ・学校教育自己診断において、教育相談に対する肯定的回答を 60%以上とする。(H26: 普通科 44.4%、体育科 57.7%) ・学校教育自己診断において「命の大切さや社会のルールについて学ぶ機会がある。」という回答率を 80%以上とする。(H26: 普通科 73.3%、体育科 84.5%) ・人権学習の生徒アンケートにおいて「理解を深められた。」とする肯定回答率を 70%以上とする。(H26: 普通科 68.9%、体育科 78.9%)</p> <p>エ・職員会議等における不祥事根絶に向けた意識啓発を継続する。(H26: 4 回)</p>	<p>ア・遅刻者数が986件であり、今後も現状の指導体制を継続していく。(○)</p> <p>・あいさつの励行について、普通科 88.0%体育科98.4%ができていると回答している。(◎)</p> <p>イ・普通科入部率が男子60.5%、女子 54.6%であり、次年度の入部率向上をめざす。(◎)</p> <p>ウ・教育相談に対する肯定的回答が普通科46.3%、体育科66.9%であり、より気軽に生徒が相談できる体制づくりを推進する必要がある。(○)</p> <p>・「命の大切さや社会のルールについて学ぶ機会がある。」という質問への肯定率は普通科72.0%、体育科 85.5%である。(○)</p> <p>・人権学習に対する肯定率が普通科 66.0%、体育科82.2%である。(○)</p> <p>エ・職員会議等における教職員への不祥事根絶に関する意識啓発を 5 回行った。(○)</p>
<p>4 体育・スポーツの拠点校としての発展と地域交流の促進</p>	<p>競技力の向上とスポーツ拠点校としての取組の強化 ア 競技力向上のためのスポーツ環境の整備 イ 地域スポーツの普及・振興 ウ 地域交流・地域貢献の推進 エ 学校広報の充実</p>	<p>ア・さらなる競技力向上にむけ、ソフト・ハード面での充実を図る。</p> <p>イ・地元小学生対象の「ふれあい大塚スポーツ教室」の充実発展及び地元中学校運動部との連携と交流を推進する。</p> <p>ウ・地域交流としてスポーツ関連事業や市民文化活動、地域フェスタに積極的に参加して地域交流、地域貢献を進める。</p> <p>エ・総務部を中心に学校説明会、中学校訪問、学校ホームページの充実などを促進する。</p>	<p>ア・スポーツ講演会、スーパーインストラクター招へい事業のさらなる充実を図り、生徒対象のアンケートにおける満足度を 80%以上とする。(H26:75%)</p> <p>イ・「ふれあい大塚スポーツ教室」の種目増と 120 名以上の参加者を募る。(H26: 109 名)</p> <p>ウ・文化部の保育園や老人福祉施設等への交流事業を促進する。(H26: 吹奏楽 3 回、ダンス: 2 回) ・学校教育自己診断で、「授業や部活動を通じて、小中学校、地域の方々と交流する機会がある」と回答する率を 50%以上とする。(H26: 普通科 36%、体育科 62%)</p> <p>エ・学校説明会（年間 4 回実施）の内容を充実させ、参加者の 10%増をめざす。(H26: 計 950 名) ・中学校訪問を全教員が分担して実施し、訪問エリアの拡充を図る。 ・学校ホームページのリニューアル充実とリアルタイムでの更新に努め、アクセス数の 1 割増を図る。(H26: 4, 950/月)</p>	<p>ア・スポーツ講演会、スーパーインストラクター招へい事業のさらなる充実を図り、生徒対象のアンケートにおける満足度が約75%であり、概ね満足度の高い内容となった。男子バレー部、陸上部女子7種競技等での全国優勝、本校初のプロ野球選手の誕生等、顕著な成績を挙げることが出来た。(◎)</p> <p>イ・地元の 2 小学校から90名余の参加の元、サッカー、バレー、バスケットの3種目において「ふれあい大塚スポーツ教室」を開催するとともに、3 中学校主催の地域フェスタにダンス部が参加した。(○)</p> <p>ウ・交流事業 (H27: 吹奏楽(2回)、ダンス(5回)) 「地域と交流する機会がある」と回答した率が普通科33.3%、体育科 69.0%であり、さらに継続して地域連携を進めていく必要がある。(○)</p> <p>エ・年4 回の学校説明会（参加者H27: 1,247名）と副担任による通学エリアを基本とした中学校訪問を実施し、広報に努めた。(◎) ・学校ホームページ閲覧数が約 10%アップしたが、掲載内容の充実と更新頻度を高め、学校PRに努めていく。(H27: 5,400 回/月) (○)</p>